

令和3年度 事業報告(概要版)

(法人本部)

◇法人本部	P 1
-------	-----

(高齢者福祉事業)

◇特別養護老人ホームおおすか苑(従来型) (おおすか苑ショートステイ含む)	P 2
◇特別養護老人ホームおおすか苑(ユニット型)	P 3
◇おおすか苑デイサービスセンターほほえみ	P 4
◇おおすか苑居宅介護支援事業	P 5
◇掛川市南部大須賀地域包括支援センター	P 6
◇山崎デイサービスセンター	P 7
◇小規模多機能型居宅介護よりみち	P 8
◇グループホーム野樂里	P 9

(児童福祉事業)

◇よこすかぬく森こども園	P 10
◇おおぶち保育園	P 11

令和3年度 事業報告（概要版）

法人本部

1. 理事会・評議員会などの開催について

- ・評議員選任・解任委員会（令和3年5月27日開催 全員出席）
- ・定時評議員会（令和3年6月15日開催 評議員6名・監事1名出席）
- ・臨時評議員会（令和4年3月2日開催 評議員7名・監事2名出席）
- ・第1回理事会（令和3年5月27日開催 理事6名・監事2名出席）
- ・第2回理事会（令和3年6月15日開催 理事6名・監事2名出席）
- ・第3回理事会（令和3年7月27日開催 理事6名・監事2名出席）
- ・第4回理事会（令和3年9月28日開催 理事6名・監事2名出席）
- ・第5回理事会（令和3年11月16日開催 理事6名・監事2名出席）
- ・第6回理事会（令和4年1月18日開催 理事6名・監事1名出席）
- ・第7回理事会（令和4年3月15日開催 理事6名・監事2名出席）

2. 監事による監査の実施

- ・令和3年 5月13日 法人監事による令和2年度事業報告及び決算監査を施行
- ・令和3年11月16日 法人監事による令和3年度上半期事業報告及び仮決算監査を施行

3. 登記関係

- ・目的など登記 令和3年5月20日登記（幼保連携型認定こども園の経営追加）
- ・資産の変更登記 令和3年6月16日登記（32億9816万4061円）
- ・役員に関する事項登記 令和3年6月24日登記（理事長重任）

4. 定款変更

- ・令和3年5月10日認可
目的 第二種社会福祉事業 幼保連携型認定こども園の経営 を追加
別表 建物・土地 新規事業（よこすか めく森こども園） を追加
- ・令和4年3月30日認可
目的 第一条 第二種社会福祉事業 保育所の経営 を削除
種別 第三六条 (1)居宅介護支援の事業 (2)地域包括支援センターの事業 語句の訂正
別表 土地 番号21 面積2316.11㎡ 所有権移転登記完了による面積訂正

5. その他

- ・令和3年7月8日 県社会福祉施設指導監査（おおぶち保育園）
- ・令和3年11月30日 私営幼保連携型認定こども園指導監査（よこすか めく森こども園）
- ・令和4年1月13日 特定教育・保育施設等指導監査（よこすか めく森こども園）
- ・令和4年3月4日 社会福祉法人に対する指導監査

令和3年度

特別養護老人ホームおおすか苑（従来型） おおすか苑ショートステイ

事業報告

1. 特養（従来型）入居者の状況

- (1) 利用状況：利用者数は延べ17,879名であり、昨年度の延べ17,893名に比較し、14名減少した。稼働率は、昨年度の98.1%に対し、今年度は、98.0%であった。
- (2) 入・退所状況：退所17名、入所18名の計35名の異動があった。退所理由は、死亡が13名、医療機関への転院が4名。入所経路は、在宅から7名、老健施設から1名、療養型施設から7名、グループホームから1名、医療機関から2名。

2. ショートステイ利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
利用者計(人数)	368	401	353	430	461	396	333	302	314	335	320	324	4,337
1日平均利用者数	12.3	12.9	11.8	13.9	14.9	13.2	10.7	10.1	10.1	10.8	11.4	10.5	11.9
稼働率	61.3%	64.7%	58.8%	69.4%	74.4%	66.0%	53.7%	50.3%	50.6%	54.0%	57.1%	52.3%	59.4%

3. 特養（従来型）入居者の健康管理

令和3年度に入院治療を受けた者は11名。総入院日数は169日であった。昨年度と比べると、総入院日数は21日増加した。

4. 特養（従来型）優先入所

令和4年3月31日現在の入所申込者は53名で、昨年同時期と比較し1名減少した。

保険者別の状況は以下のとおりである。

保険者	掛川市	菊川市	御前崎市	焼津市	富士市	合計
待機者数	46	3	2	1	1	53

5. 防災活動

1) 防災訓練の実施状況

職員数の少ない夜間想定避難訓練を重点として毎月の訓練を実施した。

2) 自主点検の実施

「火気取締責任者の担当区域及び業務分担表」に基づき防災点検を毎月実施した。

6. 職員研修・会議

- (1) 内部研修；専門職としてのケアを行う上での倫理の確立、介護サービスの質の向上、多職種連携を目指し、11の研修に、延べ148名の職員が参加した。
- (2) 外部研修；9の研修に、延べ16名が参加した。

7. 地域との交流

[ボランティアの受け入れ]

(1) ボランティア提供者

地域の方々には草取りや清掃を提供していただいたが、地域の小中学生の介護体験また芸能慰問といったボランティア活動は新型コロナウイルス感染防止対策のため受け入れを中止した。

(2) 定期来苑ボランティア

こでまりの会のシーツ交換、アンダンテのハーモニカ演奏の2団体の定期来苑も中止した。

令和3年度

特別養護老人ホームおおすか苑（ユニット型）事業報告

1. 利用状況

- (1) 利用状況：利用者数は延べ10,899名であり、昨年度の延べ10,847名に比較し、52名増加した。稼働率は、昨年度99.1%に対し、今年度は99.5%であった。
- (2) 入・退所状況：退所5名、入所5名の異動があった。退所理由は、死亡が5名、入所経路は、自宅から2名、グループホームから2名、医療機関から1名。

2. 入居者の健康管理

入院治療を受けた者は1名。総入院日数は12日であった。昨年度と比べると、総入院日数は13日減少した。

「令和4年3月31日現在の重度の医療的介護」の状況は次のとおり。

人数	状況の内訳（重複有）						寝たきり人数
1	入院中	点滴	酸素吸入	カテーテル	経管栄養	吸引	1
	0	0	0	0	1	1	

3. 優先入所

令和4年3月31日現在の入所申込者は25名で、昨年同時期と比較し1名の減少した。

保険者別の状況は以下のとおりである。

保険者	掛川市	菊川市	浜松市	合計
待機者数	23	1	1	25

4. 防災活動

- (1) 防災訓練の実施状況
職員数の少ない夜間想定避難訓練を重点として毎月の訓練を実施した。
- (2) 自主点検の実施
「火気取締責任者の担当区域及び業務分担表」に基づき防災点検を実施した。

5. 職員研修・会議

- (1) 内部研修
専門職としてのケアを行う上での倫理の確立、介護サービスの質の向上、多職種連携を目指し、9の研修に、延べ79名の職員が参加した。
- (2) 外部研修
6の研修に、延べ21名の職員が参加した。

6. 地域との交流

- (1) ボランティア提供者
地域の方々には草取りや清掃を提供していただいたが、地域の小中学生の介護体験また芸能慰問といったボランティア活動は新型コロナウイルス感染防止対策のため受け入れを中止した。
- (2) 定期来苑ボランティア
こでまりの会のシーツ交換、アンダンテのハーモニカ演奏の2団体の定期来苑も中止した。

デイサービスほほえみ 事業報告書

1. 利用状況

（重点目標の『①安定した経営を維持するため一日平均利用者数を20人以上とし、稼働率70%以上を目指すとともに、令和3年度の介護報酬改定内容を踏まえ、加算の算定を検討する』の評価も兼ねる）

3月末時点で1日平均利用者数17.6名、稼働率は61.9%と目標に達しなかった。

新規利用者獲得のため、ホームページの更新、利用者家族からの情報収集、地域や居宅介護支援事業所への「ほほえみ通信」の配布や空き情報の提供などに努め、利用者の増加につながった曜日もあるが、平均利用者数の増加までには至っていない。

包括支援センター等からの紹介でお試し利用をしていただくと、本人や家族からの高評価を得てそのまま利用につながる事が多く、自信となった。

令和3年度介護報酬改定に伴い、6月より科学的介護推進体制加算を新たに算定した。

2. 重点目標『②利用者自身のできることを評価、継続できるよう支援することで自立支援を目指す。』への取り組み

入浴・排泄面では、利用者の残存能力を活かす支援ができるようになっている。職員間での情報共有を行うことで、介護における自立支援の幅を広げることができた。レクリエーション場面などでは内容を工夫し利用者のできることの新しい発見に努め、意欲向上へつなげることができた。年度末には、それぞれの利用者の1年間の取り組みや様子を家族へ報告した。

3. 事業内容に対する取り組み状況

- ・食事・入浴・送迎サービスについて、状況把握や家族との情報交換、職員間での情報共有などに努め、個々の利用者に合った方法を選択して提供することができた。
- ・健康管理について、看護職員を中心に職員全体で意識し、計画通り実施できた。
- ・生活相談について、利用日記や朝夕の送迎時を利用し家族との情報共有に努めていることで、相談援助や助言が迅速にできた。必要時には担当ケアマネジャーや関連事業所などの多職種と連携して実施できた。
- ・活動について、コロナ感染予防の為、講師やボランティアの受け入れはしていない。行事は担当を決めて企画し、利用者を巻き込んで行うことができた。昨年同様、コロナ禍において地区行事が中止となっているため、デイサービスでの敬老祝賀会を行い利用者と家族に喜んでいただけた。
- ・感染症・コロナ感染対策についても、日々の状況に合わせて対応ができた。

4. 職員研修、会議

内部での研修や会議はほぼ計画通り実施できている。

外部研修は昨年度より参加が難しい状況が続いていたが、オンライン環境が整い利用にも慣れてきたため、年度後半では必要なものにはオンラインで受講できるようになった。

令和3年度

おおすか苑居宅介護支援事業所 事業報告

1. 〔目標達成のための具体的な取り組み等〕

- ・事業所内での事例検討会等で支援について意見交換を行っている。包括支援センター職員にも参加してもらい、情報共有しながら客観的意見や知識習得の機会として活用した。
- ・利用者への分かりやすい説明には努めているが、課題整理総括表の作成はできず、活用には至らなかった。
- ・困難と判断したケースについて、包括支援センターへ報告や相談を行っている。個別地域ケア会議へ参加し他機関との連携も図った。地域の見守りネットワーク会議(2/24 浜地区)へも参加し、地域とのつながりの構築に努めた。
- ・新規受け入れに対して早急に対応し、本人や家族の不安解消、課題の早期解決への支援につながった。効率的な業務遂行については、職員個々に努めてはいるが事業所としての検討も必要であり今後の課題である。
- ・旧大須賀町以外の地域へのアピールを実施した。事業所内の人事異動に伴い、引継ぎ業務に多くの時間を費やしたが、新規利用者の受け入れを止めることはせず対応した。

2. 居宅介護支援の利用状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日のケアプラン作成件数は延べ1,912件。
昨年同時期と比較して135件の増である。今年度の前半は、昨年以上に積極的に新規利用者の受け入れを行った。10月以降は介護支援専門員の異動や交代があり新規利用者を担当できる職員が限られた為、受け入れのペースが落ちた。さらに利用終了者が増加したことも減少の原因である。

3. 予防介護支援の利用状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日のケアプラン作成件数は延べ226件。
昨年度の同時期と比較し10件の増であった。

4. 居宅介護支援異動状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日の新規作成件数は54件でそのうち72%が地域包括支援センターからの紹介であった。また、終了件数は70件で理由として多いのが入所・入院であり、全体の83%を占めた。

5. 介護認定調査

新型コロナウイルス感染症予防のため、令和2年12月より調査の実施を中止している。

6. 研修、会議

内部での研修や会議は計画通り実施できている。
外部研修についても、環境が整い今年度はオンラインで参加できた。

掛川市南部大須賀地域包括支援センター 事業報告

1	担当圏域	掛川市 116,687人（前年比－389人） （大須賀地区）人 口 10,579人（前年比 －47人） 高齢者人口 3,614人（前年比 ＋10人） 高齢化率 34.16%（前年比 ＋0.65%） ※R3.3月末現在
2	職員体制	主任介護支援専門員1名・看護師1名・社会福祉士2名（1名は兼務）
3	取り組んだ事業内容	【1】総合相談支援業務 ① 実態把握 90件 ② 総合相談受付、対応数 ⇒1,846件（昨年1,910件） 来所 582件、電話 883件、訪問 381件 【2】権利擁護業務 権利擁護相談連絡票提出1件 高齢者虐待対応相談：0件 任意後見制度の利用支援3件 その他にも、日常生活自立支援事業の利用や生活保護受給などについて関係各所と連携して対応した。 【3】包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 ① 個別ケア会議：23回開催 ② 南部地域包括支援センター主催研修の実施 【4】介護ケアマネジメント業務・指定介護予防支援事業 請求件数 312件（直営51件、委託261件） 第1号介護予防支援事業 請求件数 314件（直営232件、委託82件） 【5】認知症施策推進業務 ・8月に横須賀学童保育でキッズサポーター養成講座を開催予定だったが、緊急事態宣言が出て延期。来年度中に実施予定。 ・認知症地域支援推進員の業務遂行 （会議参加、認知症カフェ・笑顔のつどいの開催支援など） 【6】生活支援体制整備事業に関する取り組み ・毎月の民児協定例会へ参加し地域との連携に努めているが、福祉懇談会等は中止されており、直接地域の集まりに参加できていない。見守りネットワーク会議には参加。 ・地域をまきこんでの通いの場づくりを計画。来年度実行予定。 【7】研修、専門知識の研鑽 ・大須賀ふくしあ所属団体での連携会議を毎月実施。 常時から各種の専門性を活かした検討ができています。 ・オンラインも含め、研修や勉強会に積極的に参加し、専門知識の習得やスキルアップに努めた。

山崎デイサービスセンター 事業報告

1. 利用状況

(重点目標①「1日平均利用者数18人をキープできるようにする」への評価も兼ねる)

3月末時点で1日平均利用者数15名と目標人数に届かなかった。

地域施設(とうもんの里)や地区の集まりの際にチラシを配りPRするなど、新規利用者の獲得方法を検討したが実施できなかった。

『山崎だより』は毎月発行し、その中で空き情報もPRしたが、目につきにくかったのか効果は不十分であった。パンフレットの作成はできなかった。

PRの仕方を再度検討し、新しい試みも視野に入れての利用者獲得が課題である。

2. 重点目標②「効果的にリハビリ器具を使用し、ADLの維持に繋げる」への取り組み

ADLの評価は未実施。リハビリや状態把握のための会議も実施できなかった。

今年度中職員の退職や異動が多くあり介護・看護職員が定着しなかったことも影響した。

3. 事業内容に対する取り組み状況

- ・食事・入浴・送迎サービスについては、状況把握や家族との情報交換、職員間での情報共有などに努め、適切に対応できた。
- ・健康観察・介護相談の面では、利用者への聞き取りや、職員間での伝達を意識して行うようになってきたが徹底まではできなかった。
- ・活動について、コロナ感染予防の為、講師やボランティアの受け入れはしていない。行事は年間計画通りに実施できたものと内容を変更したものがあつた。おやつ作りなどは、栄養士と協力し毎月実施でき好評だった。
- ・運動・体操・機能訓練について、午前中の運動は習慣となり利用者の皆さんが積極的に行えた。職員からの促しが必要な方も声掛けに対して好意的に行ってくれた。手指リハビリの内容についても工夫をし、バリエーションあるものを提供できた。
- ・感染症・コロナ感染対策については、感染症対策委員会を中心に状況に合わせての対応ができた。

4. 職員研修、会議

内部での研修や会議はほぼ計画通り実施できた。

外部研修は昨年度より参加が難しい状況が続いていたが、オンライン環境が整い利用にも慣れてきたため、年度後半では必要なものにはオンラインで受講できるようになった。

5. 防災

水害時訓練、防災訓練を実施した。その他にも、各機関と連携しての点検や設備のメンテナンス等を随時行っている。

令和3年度 小規模多機能型居宅よりみち 事業報告書

1. 利用状況 定員：登録定員 25 名（通い；15 名／日 泊り；6 名／日）

令和3年度の月平均登録者数は、16.0 名で昨年度と比較して 2.6 増加したが、要支援認定を受けている方の登録が増え、要介護認定を受けている方の登録は増えなかった。定員に対する登録率は平均で 64.0%。通いの一日平均利用者数は 7.9 名で 0.2 名増加。泊りの一日平均利用者数 1.7 名で 0.7 名減少した。サービス利用開始者数が 10 名、サービス終了利用者数が 6 名であった。

2. 事業の展開・サービス提供

（1）個別サービス計画

ほぼ計画通り実施できた。利用者本人の趣味嗜好に応じた活動や自宅での生活を考慮し、「通い」において食事の配膳や洗濯等に携われるように努めた。

（2）身体状況の確認

計画通り実施できた。日々の健康チェック、医療機関や家族等への報告を行うことで、早期に変化に気づき対応できるよう努めた。

（3）地域との交流

計画通り一部実施できてない。新型コロナウイルス感染防止対策で地域行事への参加や交流ができなかった。お便りを店舗に設置したり、地域に配布したり PR に努めた。

（4）サービス評価の内容を踏まえた事業の展開

昨年度の運営推進会議構成員の事業所自己評価への意見を踏まえて作成した改善計画に沿って取り組んだ。

（5）通い支援

計画通り実施できた。手作りでのおやつ作り増えた。個別に計画している運動も継続できた。本人の生活スタイルに合わせ「通い」の提供時間を調整した。

（6）訪問支援

計画通り一部実施できなかった。新型コロナウイルス感染防止対策で地域行事への参加はできなかったが、必要に応じて近隣住民と連絡をとり支援に繋ぐことはできた。

また、個別の日常生活の支援はで実施できた。

（7）宿泊支援

計画通り実施できた。

3. 運営推進会議

新型コロナウイルス感染防止対策で招集会議は 1 回、書面会議は 5 回実施した。

4. 職員研修・会議

内部研修；12 の研修に、延べ 90 名参加した。

外部研修；3 の研修に、延べ 4 名参加した。

5. 防災

防災委員会；1 回開催した。

防災訓練；5 回実施した。（日中・夜間想定避難訓練、設備確認及び通報訓練等）

6. ボランティア

新型コロナウイルス感染防止対策で受け入れ中止した。

令和3年度

グループホーム野楽里 事業報告書

1. 利用状況 定員：18名（9名×2ユニット）

令和3年度の利用者数は、延べ6,218名。一日平均利用者数は、17.0名で昨年度と比較して0.6名減少。定員に対する稼働率は、94.6%であった。サービス利用開始者数が7名、サービス利用終了者数が8名であった。

2. 今年度の事業内容

（1）生活支援

計画通りほぼ実施できた。家事活動を中心に個別の機能や状態に合わせた役割が持てるような支援を行った。コロナ禍で家族との面会制限が継続する中でも、「野楽里通信」を送付や、3ヶ月1回近況報告を兼ねた手紙の送付は継続できたが、電話での報告は定着しなかった。

（2）アクティビティ活動

計画通り一部実施できなかった。新型コロナウイルス感染防止対策で屋外活動の開催ができなかったが、園芸活動やドライブなどのお楽しみ行事は開催できた。

また、合同でのレク活動を開催することで利用者同士の交流する機会ができた。

（3）より良いサービスの提供

計画通り実施できた。ケアプランに沿ったケアの実施、毎月のユニット会議にて入居者の評価を行うことでケアプランの見直しにつながることができた。また、ケア記録への意識も高くなった。不適切ケアの報告に対しては、個別の指導に努めた。

- ・内部研修；6つの研修に、延べ72名参加した。

毎月計画していた研修は開催できなかった。

- ・外部研修；3つの研修に、延べ3名参加した。

コロナ禍のため、WEB研修への参加のみであった。

3. 地域との連携

新型コロナウイルス感染防止対策で招集会議は1回、書面会議は5回実施した。

4. 自己評価・外部評価

外部評価日；令和3年11月24日実施した。

5. 防災

防災委員会；1回開催した。

防災訓練；5回実施した。（日中・夜間想定避難訓練、設備確認及び通報訓練等）

6. ボランティア

新型コロナウイルス感染症の影響で、受け入れ中止した。

令和3年度 事業報告

【よこすか めく森こども園】

1、保育構想

今年度4月より新たに認定こども園となり、新しい園舎で園児も職員も人数が増える中、職員の共通理解を図りながら、保護者とより良い関係を作ることができるように、また子どもたちがこの園で好きな人を見つけ、安心して過ごし、たくさん遊び学ぶことができるように事業を進めてきた。

2、業務内容

1) 今年度の目標

- ・様々な事柄について、職員が共通理解をする。
- ・保護者の理解を得ていく。
- ・子どもの理解に努め、一人ひとりを大事にした保育に努める中で、子どもたちが安心して過ごし、好きな遊びを見つけることができるようにする。

2) 評価・課題

- ・毎日の夕礼で子どもの様子を共有することで、担任以外の職員も子どもや保護者に声をかけることができた。
- ・報告、連絡、相談の体制がはっきりしていなかった。
- ・年度初めのアンケートをふまえ、デッキへのカーテンの取り付け等の改修工事を行った。
- ・年度末のアンケートでは園の運営について多くの保護者から、満足している・やや満足しているという評価をいただくことができた。
- ・子どもの姿から環境を考えたり保育者が環境となることで、自ら遊びを見つけたり友だちと関わって遊ぶ姿が増えた。

3) 課題

- ・機能的な職員体制
- ・保護者の方に理解していただけるような伝え方

3、クラス編成

歳児	クラス名	男 児	女 児	計	保育士数
0 歳児	ひよこ	4	5	9	3
1 歳児	うさぎ	14	8	22	5
2 歳児	りす	9	13	22	4
3 歳児	ばんだ	7	7	14	1
	こあら	5	9	14	1
	ひつじ	6	8	14	1
4 歳児	きりん	6	10	16	1
	く ま	8	9	17	1
5 歳児	らいおん	6	14	20	1
	ぞ う	7	14	21	1
計		72	97	169	19

4、交流会

畑の先生・・さつま芋のつるさし・芋ほり・冬野菜の植え付け・玉ねぎの植え付け
大須賀中学校・・職場体験・家庭科保育実習

5、火災・地震・津波・水害・不審者対応訓練

①各年齢に応じた安全教育 ②基本的な能力を身に着ける ③職員の防犯意識を高める

6、内部研修

- ・年3回のリモート研修
- ・新卒職員の公開保育を通しての話し合い

令和3年度 事業報告

【おおぶち保育園】

1、保育構想

今年度は、来年度の認定こども園開設に向けて駐車場の整備、保育室床の張替えなどの改修工事を行ってきました。目標達成の「よくたべ、よくねて、よくあそぶ」に向けて、環境整備をしながら、子どもが心や体を十分に動かして様々な事を学ぶ事が出来るように、保育を行ってきました。

2、業務内容報告

1) 今年度の目標

- ・重点目標「よくたべ よくねて よくあそぶ」を掲げ乳幼児期の基礎基本である食事・睡眠・遊びを重視した保育を展開した。
- ・認定こども園化に伴う準備をする。

2) 取り組み評価・課題

- ・教育・保育を行っていく上で、今まで以上に質の向上に努めていく。
- ・こども園開設後の課題に対して、一つひとつ丁寧に迅速に対応していく。
- ・園の教育・保育方針や、取り組みを園の内外に発信していく。

3) クラス編成

歳児	クラス名	男 児	女 児	計	保育士数
0 歳児	みかん	2	7	9	3
1 歳児	もも	7	6	13	3
2 歳児	いちご	11	6	17	3
3 歳児	めろん	8	10	18	1
4 歳児	ばなな	11	7	18	1
5 歳児	ぶどう	7	9	16	1
計		46	45	91	12

4) 交流会

6月 7日 じゃがいも堀り
6月17日 さつま芋つるさし
2月21日 じゃがいも植え付け



3・4・5 歳児、ふれあい農園

5) 火災・地震・消火訓練及び不審者対応訓練実施報告

目的 ①園児の安全確保 ②職員の危機管理意識(責任・自覚を持ち適切な判断のもと迅速な行動をとる)

6) 内部研修

研修内容 認定こども園開園に向けて

- (4月～6月)・認定こども園について(認定こども園の実態と課題・認定こども園教育、保育要領のポイント)
- (7月～9月)・令和4年度保育について(生活の流れ・行事・保育士の動き)・子どもに遊ばせたい園庭環境)
- (10月～12月)・認定こども園の課題についての検討(1号児の受け入れ・降園・会議の持ち方)
- (1月～3月)・認定こども園の生活についての共通理解(日案・職員の動き・子どもの動き)

3、一時預かり事業

実施状況 6月2名(私的理由による)4時間以内

4、子育て支援センター事業

コロナ禍や少子化の影響もあり登録数は少なく、3月現在54組。サークルでは人数制限を行い、利用者に協力してもらいながら感染対策を取った。引き続き利用者一人ひとりに寄り添い、丁寧な対応をしていく。